

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通心

2000

# 冬

12月1日発行(季刊)



特集 晴松亭と美藻庵の日々 — 一期一会  
好評連載 「Oh! 茶Gai!」  
十二月から二月までの茶華道・イベント情報を掲載

毎年10月12日は祭りの日と決まっている。

満濃町長尾地区の三島神社で行われる湯立神楽は、一子相伝で受け継がれてきた。伝承する宮司さんと地元保存会の皆様の協力で厳格に守られ実施されて今日に至る。

28

発行・財団法人中條文化振興財団  
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号  
TEL.(087) 826-3355 FAX.(087) 826-2212

# 一期一会

財団の事業のひとつとして茶室運営事業があります。茶会や茶事の舞台として貸茶室としてご利用頂いております晴松亭と美藻庵は、普段はただの数寄屋の空間にすぎません。性格をおさえたこの空間は、お客様を迎える主催者（亭主）の演出によって様々に変化します。季節やテーマ、道具等を組み合わせ、人が創意を凝らすことで、建物の空間が生々しくと輝きはじめ、本当に完成したと実感できる瞬間は、正にお客様が席に入られた時のように思います。緊張感に包まれた一瞬より楽しい時が始まります。

場というものの大切さは、普段なかなか意識されることはないと思いますが、亭主とお客様の一期一会、また晴松亭・美藻庵とご亭主のそれを日々見せて頂きながら、改めて強く感じます。今回は九月に開催された財団の主催事業より茶会とコンサートについて、それぞれ参加・ご協力下さった方々に、ご紹介いただきました。

## 「あ・うんの数寄講座」

### 連動茶会

立秋をとうに過ぎたとはいえ、九月はまだまだの残暑。「あ・うんの数寄講座」連動茶会と銘打った財団主催の茶会は、樂吉左衛門さんと一玄庵戸田博さんの息のあった、まさにあ・うんの茶会でした。雑誌のグラビア特集で見るとなにお席に集まったみなさんは、一様に緊張のご様子。この日の暑さは季節のせいばかりではなかったのでしょうか。

寄付の床には樂家二代常慶が飛州の



蒲生氏郷を訪ねる旅の、諸国通行手形ともいえるべき「傳符状」を軸表装にしたものが掛かっています。樂家ゆかりの文書は、千家二代目を継いだ少庵の召し出しに関連したものと伺い、「茶道具

▲美藻庵での樂吉左衛門氏



に語らせる歴史の面白さ」を思いました。

本席では福岡市からお越しになった方が正客をお引き受けくださり、亭主の樂さんとも挨拶が済み、濃茶のお点前が始まりました。正客は茶道に造詣が深いばかりでなく、とてもユーモアのある方で、後々、一座を楽しく率いてくださり、終始和やかに過せました。床の圓鑑国師の墨跡の読み下しを願い、茶道具のお伺いが続くうちにやがて黒染茶碗に香高い茶が練られたらしく、正客の前に運ば

れました。

茶碗は常慶作の「黒木」、細く華奢な茶杓が蒲生氏郷作と伺って、さっきの寄付の掛軸に書かれた歴史上の人物が重なり、彼らが生き生きと登場してくるような道具組に、一同しきりと感嘆の体で過ごしました。席が終つてもう一度拝見に膝を進めた時、ほの暗い部屋に外光が差し込んで、貴船菊と赤い水引草の入った黒い鶴首の花入に濃緑の色が浮かんで見え、思わず「あらっ」を声あげそうになりました。そういえば、席中で、「樂家の茶陶は全て手捏ねですから、細長い管の鶴首形の造法は難しく…と工法を詳しく説明して下さった時、「緑釉」の言葉があったのを思い出しつつ、改めて三代道入の名品にお礼のご挨拶をして退席しました。

一玄庵戸田博さんの薄茶席には寛永の三筆として名高い松花堂が月の絵で季節を告げ、精緻な七宝透の桑の風炉先屏風が囲んだ空間に、樂さんの焼貫四方水指が清々しく置かれていました。高温で焼ききった岩肌を思わせる堅い焼ものに、戸田さんが合わせたステンレスの蓋がちゃんと仲良くして、それで、蓋を取ると内側に明るい緑の筋がハツとする新鮮な美しさに映っていて見事なものでした。

世間という猫に小判で、立派なお道具に申し訳ないほど勿体ない話なのですが、樂さんは「好きになればいいんです

よ」とやさしい言葉をかけてくださいます。好きな道具を見付けて、ただ好きという目で見ていれればいいという助言の裏で、「何事によらず、他人の理屈で構成したものではない、自分自身の感性の世界をお持ちなさい」と励ましていたのだいたような気がしました。

お茶会の感激をお伝えしたくて書き始めたものの、茶道具や席主の意図するものを理解する能力のない悲しさで、うまく書けません。そこで、次号に、一玄庵戸田博さんから、この茶会の道具組のご披露をお願い出来たらと思います。

妹尾 共子

## 西垣正信ギターリサイタル

### 「バッハ没後二五〇年記念リユート組曲全曲」

数寄屋空間でのサロンを提唱して二年目、昨年ご好評をいただいた神戸在住のギタリスト西垣正信氏をお迎えして、今年もクラシックギターコンサートを開きました。

特に、今年はバッハ没後二五〇年記念になるために、バッハのリユート組曲全四曲に、チェロ組曲一番とシャコンヌを

加え、一日で演奏するという今まで企画されたことのない、しかも、非常に重厚なプログラムとなりました。

そのため、チケットも一部・二部・一日通しの三種類用意して無理なく参加していただけるようにしました。そして、一部二部とも予定を上回る申し込みをいただきました。

当日、コンサートが始まる午後には雨足が強くなり心配されましたが、申し込みいただいた皆様がお越し下さり、屋根に降ってくる雨音をも聞きながらギターの音色に耳を傾けました。何よりも、演奏者の息づかいや指づかいまでも感じられるコンサートは、広いホールでは決して味わうことのできないものでした。

また、休憩時と演奏後のおもてなしでは、一日通しの方々もいらっしゃいますので、それぞれ献立を変えた料理とワイン・お茶などをお出しして、楽しいひとときを過ごしていただきました。

演奏者を囲んで、あるいは同じテープ



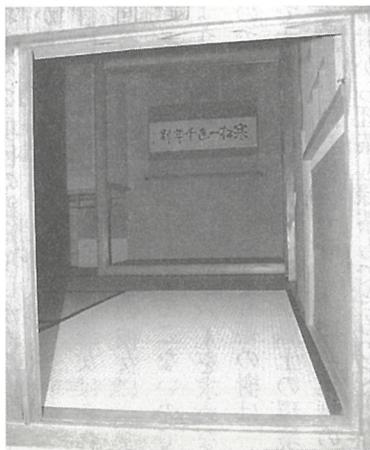
ルになった初対面の人同志舌つづみを打ちながら話が弾み、ちよつと緊張しながらも、なごやかな雰囲気につつまれていました。

見まわしているご夫婦、「たたみを焦がすといけないので、外で吸ってきます」といって席を立つ人など、貴重なお茶室に参加して下さった人それぞれの思いやりとやさしさを感じることでできたコンサートでした。

千葉 規美子

## 美藻庵点描

### 二、床の間



単に床とも言い、もとは壁に仏画を掛け、その前に押板を置いて具足などを飾り、拝礼していたのが、形式化した床の間(床)になったという説が一般的である。

数寄屋における床の間は、村田珠光の真の四畳半に一間の床が最も古いものとされている。利休の時代から、床の形式が各種造形されるようになり、その種類には、本床、板床、畳床、蹴込床、室床、土床、洞床、袋床、壁床、付床、置床、吊床、枳床、円相床などがある。織部床、原叟床などのような、創作者の名が付けられたものもある。

床の間の構成材料には、床柱、床框、床地板、落掛、床天井、雲板、軸掛釘、その他床を囲む壁面によって結構されている。

美藻庵は槐(ナグリ仕上)の床柱を用いた床の間で、点前座(台目畳)との間の壁を抜くことにより、四畳半台目の限られた空間をもたせることに成功した、緊張感の中にも心地よさを残した草庵茶室といえよう。

茶席に招かれた折り、御亭主や作法に気を使うだけでなく、床の扱い等にも目を向けて、より一層茶会席を楽しみたいものである。

# 「紅茶」を語る お茶の時間



収集トラクターの帰路

## 気ままにティータイム

遠くに阿蘇山脈を望めるここは、高松市郊外の高台。連なる山々と子供茶碗や煎茶碗を伏せたような、かわいいいくつかの山が箱庭のように、ちょうど良い具合に収まっている。もうちょっと何か欲しいでもなく、ごちゃごちゃもしてなくて良い加減とは、これを言うのだろう。雨上がりの今は、うつすらとほのあたたかな明るい雲になり、雲の厚さも薄い綿菓子のようにだ。それらの淡い雲が所々低く垂れ込め、風に乗せられ運ばれている。時には、まんだら模様になった濃淡が、雨模様の墨絵のような世界を残している。もしも、

大きな天狗のうちわがここにあつて、ひとあおぎすれば、みるみるうちにもわっとしたものが払い蹴散らされ、そこは濃い緑の、それも秋の憂いを含んだ風景が展開するだろう。こういう時、讃岐に生まれ育ち、ほんとに良かったなあと思直す。

この風景をみていて、いつしか思いをめぐらすのはやはり茶畑だ。山間や里の茶畑の、霧を抱き込んだ風景だ。国内で訪れた茶畑 インドのダージリンでの茶畑。それらはみな、周りの環境こそ違えど、大なり小なりおんなじ風景だ。そこには茶樹の顔、人の顔がそれぞれあり、個性を出しているのがおもしろく見ているだけで楽しい。

ところで、人からよく聞かれる事のひとつにフレーバーティーがある。たいていの人は、「良い香りが好きです。」とうれしそうに言っただけ。そんなとき、「ああそうですか。それは良かったですね。」と答えるしかない。セミナーなんかでは、やんわりとその視点を改めさせていたでいる。たとえば、「とっても美味しい紅茶があれば、それだけで満たされませんか？他の超級食材でも最大限にその美味しさを味わうときは、シェフが出さるだけシンブルにお料理しませんか？それと同じですよ。まずは、そのものの美味しさを味わってください。」とまあ、こんな具合にである。しかし、いつまでもそんな答え方では少しはつきり言ってみて。「フレーバー？では、日本の緑茶で美味しいと思ったときはどんな時ですか？緑茶のどこが美味し

いつて感じました？」すると、私に質問されていた若い女性が、素晴らしい答えをくれた。「渋み…色…それから香り…」。素直に賞賛させていただいたが、そのままずばりの回答であった。お茶の鑑定には、おおよそ120項目の鑑定項目があるが、形状から始まり大別して色、味、香りの3項目になる。紅茶に初心者の彼女はそれを回答したのだ。つづけてその彼女に「なぜ、そこでフレーバーが出てこないのでしょうか。なぜ、緑茶にフレーバーを求めないのでしょう？紅茶も緑茶も茶の樹は一緒ですよ。系列、品種と気候風土の環境こそ違えど同じ植物ですよ。同じ植物の茶の樹から紅茶も緑茶もできるのですよ。緑茶に求めなくても、紅茶には求めるのですか？紅茶のフレーバーというのは、殆ど人工的に香り付けしたもので、紅茶本来の香りは別にあるですよ。美味しい紅茶には、自らの美味しい香りがあるのです。」最初はキョトンとしていた彼女、「ああ、そうか、そうですね。知りませんでした、考えもしてませんでした。今までどうして、フレーバーって追いかけていたのでしょうか。」聡明な彼女はすぐに納得されて、今までの概念のあやふやさを、しきりに不思議がっていらつしゃった。

紅茶とくれば、フレーバーティーとくるその訳には、成り立ちが大きく関わってくるが、それを否定するまでも無く、その本来あるべき姿はぜひ心に留めていただきたいと願う。とある有名な紅茶専門店では、店頭に一歩踏み入れたところにポプリのお香をたいていた。四方の壁面には、

## 行事予定(十二月〜二月)

### 一月月釜「初釜」

二十一世紀 最初の年を迎へ、新春を寿ぎ昨年同様釜を懸け年賀の茶会を行います。今年も当財団茶の湯委員の方々が、担当して下さいますが、濃茶席 薄茶席と共に、祝いの点心や福引等も用意してお楽しみいただきたいと、只今準備をすすめています。

皆様のご参加をお待ちいたしております。

とき 平成十三年一月八日(月)祭日

席主 濃茶席 山地美津江(表千家流)

薄茶席 大内 泰雄(官休庵)

点心席 松野恵美子(裏千家流)

全七席 各席十七名様

席料 六千五百円

### 茶券ご案内

- 第一席 九時〇〇分〜十一時三〇分
- 第二席 九時五〇分〜十二時二〇分
- 第三席 一〇時四〇分〜十三時一〇分
- 第四席 十一時三〇分〜十四時〇〇分
- 第五席 十二時三〇分〜十四時五〇分
- 第六席 十三時一〇分〜十五時四〇分
- 第七席 十四時〇〇分〜十六時三〇分

◆当財団の月釜は、茶の湯の経験や、流派にこだわりなく、お気軽にご参加頂ければ幸いです。

# Oh! 茶Gai!

その⑥



学生時代にちよつとお茶を習ったという川田みどりさん。職場の先輩に薦められたのがきっかけで今の教室に通い始めて、もうすぐ二年になるそうです。その先輩は固い職場に似合わず気さくな方で、先生も雰囲気がよく「こんな人間関係の中に入れていいなあ」という気持ちで始めたそうです。お茶を習い始めていいことは、器やお花で季節の移り変わりを感じられるようになったこと。以前に比べて自然の微妙な変化に敏感になったそうです。でも最初は「お稽古の時にはラフな格好はできない」ことが少し大変だったとか、しかし今ではいつもと違う時間が持てて、とても楽しいそうです。「どちらかというと、のんびりやさん」の彼女にとってゆつたりとした「お茶の時間」は今ではかけがえの無いものになっているようです。これからもお茶を通して、いい意味でゆつたりと年齢を重ねたいそうです。

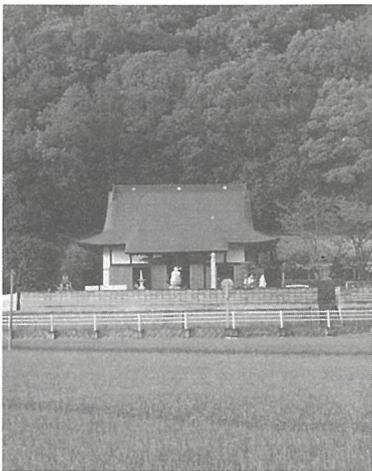
## 喫茶居(六)

### 「月見の茶会」

観月の茶会があちこちで開かれ始めると本格的な秋の到来を感じる。富熊に存る龍華山吉祥寺。小さな山に抱かれるように建つお寺は、住職はおられなくとも地元の方々の手で大切に守られているような安心感を覚える。回りに広がる田んぼの稲穂もしだいに重くなっている。

今年で八回目を数えるという吉祥寺の「月見の茶会」。毎年楽しみにして下さる方が多いので、というご亭主の言葉通り、ご近所の口伝えで次々とお客様が席に入る。本堂は点心席、庫裏は茶席と成っているものの、盛りだくさんの趣向が次々とあつて驚かされる。琴の演奏に

続いて、高山寺に做つての秋の実りを奉納する儀式が肅々と取り行なわれる頃にはあたる日も暮れ始める。さらに花寄せを楽しむうちに、いよいよ本日の主役が東の空に登場する。月に見送られながらの帰路、亭主の心憎いばかりの時間の演出にやつと気付いた。



(右頁より続く)

ずらりと紅茶の缶がぎっしり。趣のあるティーポットも並べてあった。ちよつときれいと思つて値札に注目すると、見違いかと思つほどの数字が並べられている。思わず目をそらしたが、店の作りは重厚で雰囲気が良くいかにも気品溢れている。しかしながら、素顔の美味しい紅茶の姿がどこにも見当たらず、どこかに置き忘れられた様で切なくなつてきた。紅茶の本来的な美味とフレーバーとが完全に摩り替わっている視点から、もつと素顔の美味しい紅茶に振り向いてくれればと願う。それを判った上で、次の楽しみ方があつて：いいと思う。

先ほどの薄い雲はもうどこかへ消え、太陽の光が射し込まんとしている。本当に美しい讃岐だ。

### 紅茶・紅喫の会

ティーコーディネーター 原 清子



イラスト 早期茶摘風景

晴友会の皆様へご案内

## 京を楽しむ

京都で「御茶一服」と点心

当財団で懐石講座を担当して下さっている三友居さんが、本年春、京都銀閣寺「哲学の道」の道すじに、庵をもたれました。山を借景に、小間・広間の茶室は昭和の始めの建物です。ぜひ一度伺いたいと、会友の方よりご希望があり、無理をお頼みいたしました。茶室を使わせていただき、美味しいお茶と、一味違う懐石の点心を、楽しみにいたしております。

### 香木鑑賞と聞香ご体験

昨今、香りに対する関心が多くなりました。産地や香りの異なる多種の香木(主に伽羅、沈香、白檀)をご覧になり、香りの歴史を話して頂いた後、ご指導を受けながら、香木の香りを聞く(聞香)体験を企画いたしました。

記

日時 平成十三年二月六日(火)

京都駅 午前十時半〜午後四時の予定

場所 三友居別館「塵外室」

山田松香木店 別館

費用 二万円+交通費の予定

「京を楽しむ」をご希望の方は、事務局までお申し込み下さい。詳細は年が明けてから、お知らせ致します。

すべて予約制(時間指定)となります  
お申し込み、お問合わせは、  
当財団事務局まで

☎(087)826・3355

十二月は二十七日より一月三日迄休館といたします。

# イベントガイド

## 香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

- 12/2~12/24 東京芸大美術館名品展 9:00~●
- 12/2~1/21 館蔵品による  
美校に学んだ香川の彫刻家たち展 9:00~●
- 1/6~1/21 第47回日本伝統工芸展 9:00~●
- 2/1~2/25 館蔵品による 泥谷文景展 9:00~●

## 香川県民ホール ☎(087) 823-3131

※アクトホール

- 1/14 新春玉藻能  
～源氏物語の世界～ 13:30~●

## 玉藻公園管理事務所 ☎(087) 851-1521

- 2/9~5/6 春の植木市
- 2/18 菊作り講習会
- 2/25~3/2 第5回近代表装四国支部会

## 高松市美術館 ☎(087) 823-1711

- 12/6~10 高松文化祭展2000 美術展  
高松市美術館 9:00~●
- 12/9 高松文化祭展2000 詩歌響宴  
高松市美術館 13:00~■

## 菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

- 12/2 文芸講座「菊池寛の京都時代」  
13:30~■
- 1/13 文芸講座「正岡子規と妹・律」  
13:30~■
- 2/3 文芸講座「歌僧・蔵海と清水寺」  
13:30~■

## 高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

- 1/13~2/25 第26回特別展「矢島町と生駒氏」  
9:00~●

## 高松市立市民会館 ☎(087) 839-2888

- 12/3 高松幼稚園第46回おゆうぎ会 ★  
9:30~
- 12/9~10 (社)円座百華保育園  
百華合同お遊戯会 9:20~■
- 12/17 香川県合唱祭 in 高松 10:30~■
- 1/8 おかあさんといっしょ  
13:30~・16:00~●
- 1/21 スガ シカオコンサート 19:00~●
- 2/2 高松市役所吹奏楽団  
第29回定期演奏会 18:30~■
- 2/18 日本ムービー企画  
児童アニメ映画祭 13:40~●

## セントラルホールウィング ☎(087) 833-0005

- 12/8 禅をきく会 17:30~■
- 12/9 高松第一高等学校音楽科  
卒業演奏会 11:00~■
- 12/10 演劇「再会」高松公演  
14:30~・18:30~●
- 2/11 ミュージックパトラー2001  
13:00~■

## 四季ギャラリー ☎(087) 822-9010

- 12/1~28 ミャンマーを訪ねて写真展 7:30~■

## ミュースホール ☎(087) 833-0013

- 12/3 高口浩二バイオリンリサイタル  
14:00~●
- 12/8 ユリアーノ・アヴヂエーエフ  
ピアノリサイタル 18:30~●
- 12/10 発会40周年記念 都香社尺八演奏会
- 12/16 香川大学ギターアンサンブル  
定期演奏会 18:00~
- 12/23 香川クラリネットグループ定期演奏会  
14:00~●

## 石の民俗資料館 ☎(087) 845-8484

- 12/5~10 トールペイント展 9:00~■
- 12/15 チェンバロで聴く X'mas song  
19:00~●
- 12/23~1/21 からくり人形展 9:00~●

## 丸亀市教育委員会 ☎(0877) 24-8826

- 12/1~10 藤本良和の世界  
一石彫・石彫版画・墨象一展  
丸亀城内・市立資料館 9:30~■

## 香川県西讃文化協会連絡協議会 ☎(0877) 24-8826

- 2/13~18 西讃文化協会美術展  
善通寺市美術館 10:00~■

## 丸亀市民会館 ☎(0877) 23-4141

- 12/2 和泉元彌「狂言の世界」 14:30~●
- 12/5~8 小・中学生演劇鑑賞教室 10:00~●
- 「はだかの王様」[杜子春] 13:30~●
- 12/10 丸亀市役所吹奏楽団  
第20回定期演奏会 14:00~★
- 12/16 ふれあいのつどい 12:00~■
- 2/18 讃岐太鼓のつどい 13:00~★

## 丸亀市中央公民館 ☎(0877) 24-1392

- 12/14~ 蓬萊大学一般教養講座  
12/14 「人権学習」 13:30~■
- 1/11 「アトラクション」 13:30~■
- 2/1「楽しい老後を生きるために」  
13:30~■

## 丸亀市立資料館 ☎(0877) 22-5366

- 2/10~3/18 童具展 9:30~■

## 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877) 24-7755

- ~12/10 20世紀美術の形と動き展 10:00~●
- 12/16~2/18 猪熊弦一郎展  
カンヴァスに遊ぶ 10:00~●

## 坂出市民ホール ☎(0877) 45-1505

- 12/3 坂出市民芸術祭 日舞公演 ●
- 12/10 アマチュアバンドコンサート ●
- 12/17 坂出演劇フェスティバル2000 ■

## 観音寺市民会館 ☎(0875) 23-3939

- 12/6 フラメンコのタベ ●
- 12/9 ロータリーピアノコンサート ■
- 12/17 奇跡の人 (ミュージカル) ●
- 12/23~24 スタインウェイピアノ リレーコンサート ■
- 1/20・21 池坊三豊支部 花展 ■
- 1/21 新体操発表会 ■
- 1/28 芦原すなお原作・松ヶ枝町サーガ ●
- 1/28 カトレア会ピアノコンサート ■

## 善通寺市民会館 ☎(0877) 62-7001

- 1/17~18 老人会文化祭 作品展 ■
- 1/19 老人クラブ芸能発表会 ■
- 2/1 善通寺市東中学校 立志式 ■
- 2/3・4 善通寺公民館まつり ■

## 多度津町民会館 ☎(0877) 33-3330

- 12/3 陸上自衛隊音楽隊定期演奏会 14:00~■
- 12/10 '春はブランコにのって' ミュージカル  
15:00~●
- 12/18 多度津工業高校芸術鑑賞会・映画  
9:30~■
- 12/24 ふれあいの家クリスマスコンサート  
13:30~■
- 1/21 全日本アンサンブルコンテスト  
香川県大会 10:00~■
- 2/18 カワイ音楽コンクール 10:00~■

## 大野原町文化協会 ☎(0875) 54-4787

- 1/28 大野原町芸能祭 中央集会場 未定 ■

## 仁尾町文化協会 ☎(0875) 82-2143

- 12/2 総合芸能発表会  
仁尾勤労者体育センター 18:00~■
- 1/2 囲碁大会 仁尾町公民館 9:00~▲

## 引田町教育委員会 ☎(0879) 33-2533

- 12/6~24 引田の祭り写真展 ■  
引田歴史民族資料館 8:30~■
- 1/4~2/5 平成12年度新収蔵資料展 9:00~■  
引田歴史民族資料館 8:30~■
- 2/5~4/23 引田の船大工用具と漁業  
引田歴史民族資料館 8:30~■
- 2/24 引田町中央公民館作品展 9:00~■
- 2/25 発表会 9:00~■

## 飯山町文化協会 ☎(0877) 98-7961

- 12/3 凧作り講習会  
総合運動公園 13:00~■
- 1/6・7 新春将棋大会 滝将棋道場 9:00~■
- 1/7 新春囲碁大会 北地区公民館 9:00~■
- 1/14 新春カラオケ大会  
南地区公民館 12:00~■
- 1/17~29 書道展 役場庁舎分館 8:30~■

## 香川町教育委員会 ☎(087) 879-0231

- 12/17 ピーターパンとウェンディ(ミュージカル)  
香川町総合体育館 13:30~★

## 総合会館アイレックス ☎(0877) 86-6800

- 12/24 若林正人と京フィルの  
クリスマスコンサート 15:30~●
- 2/4 劇団四季公演「ふたりのロッセ」  
18:00~●
- 2/24 石川さゆり歌謡ショー  
14:30~・18:30~●

## 三木町文化交流フラザ ☎(087) 898-9222

- 12/17 人形芝居 ゲゲゲの鬼太郎 13:30~●
- 12/23 桂三枝 爆笑落語会 13:30~●

## とらまる座 ☎(0879) 25-0400

- 12/23~24 人形劇団あば  
「南の国から来たサンタ」  
23日 13:00~ ●  
24日 10:00~・13:30~ ●
- 1/6・7・8 人形劇団ほけっと  
「おおかみと7ひきのこやぎ」  
6日・8日 13:30~ ●  
7日 10:30~・13:30~ ●
- 2/10~11/12 人形劇団たけのこ「はだかの王様」  
10日・12日 13:30~ ●  
11日 10:30~・13:30~ ●
- 2/17~18 春一番人形劇祭 13:30~●

## 灸まん美術館 ☎(0877) 75-3000

- ~12/5 第10回チャリティー展 9:00~■
- 12/8~12 熊谷 晃作陶展 9:00~■
- 12/15~19 クレイアート 紙粘土の館展 9:00~■
- 12/22~26 第3回 備前焼教室作品展 9:00~■
- 1/1~16 工藤正秀展 一辺緑系一  
1/19~23 花 ひらめき展 9:00~■
- 1/26~2/6 サタケ タクヤ写真展 9:00~■
- 2/9~20 紙人形雛祭り展 9:00~■
- 2/23~27 琴平きり絵同好会展 9:00~■

## あーとらんどギャラリー ☎(0877) 24-0927

- ~12/27 アモール・プラザ展 10:00~■
- 12/2~24 2000様々な邂逅展 II 10:00~■
- 1/7~28 須永高広展 10:00~■
- 1/6~1/24 暮らしのかたちシリーズ  
「骨董のある生活展」 10:00~■
- 1/27~2/11 細井潤子展 一自然の装い  
10:00~■

「文化通心」第29号は3月1日発行です。

次の期間(3月1日から5月末日)の情報を2月10日までにお知らせ下さい。

☎(087) 826-3355 ☎(087) 826-2212

# 茶 華 道 ガ イ ド

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

- 12/10 支部記念茶会 玉藻公園 9:00～●
- 2/11 四季茶会 本覚寺 9:00～●

淡交会高松支部 ☎(087)831-0687

- 2/4 淡交会高松支部月釜 天神会館 9:00～●

武者小路千家 香川官休会 ☎(087)851-2258

- 12/3 12月月釜 席主:牛熊照子 本覚寺 ●
- 12/3 栗林公園紅葉茶会 頭松会 日暮亭 ●
- 1/7 1月月釜 席主:小池公江 本覚寺 ●
- 1/7 日本伝統工芸展協賛茶会 古市敏子社中 文化会館 ●
- 2/4 2月月釜 席主:藤井ツタ子 本覚寺 ●

官休庵 佐々木茂社中 ☎(087)821-8777

- 1/21 初釜 中條文化振興財団 9:00～●

金丸光洋 ☎(0877)73-2226

- 12/2 琴平町歳末チャリティー茶会・煎茶席 琴平町総合センター 13:00～●
- 12/3 琴平町歳末チャリティー茶会・煎茶席 琴平町総合センター 10:00～●

華道家元池坊香川県連合支部 ☎(0877)22-7203

- 12/2・3 華道家元池坊香川県連合支部(県展) 丸亀市体育館 9:00～●

勅小原流高松支部 ☎(087)833-9274

- 2/4 1日手話教室 「手話でお花をいけましょう」 ※申し込み必要 1月末迄 高松市総合体育館 10:00～●

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。(記号表示は判明したもののみ)

上記予定は変更する場合があります。

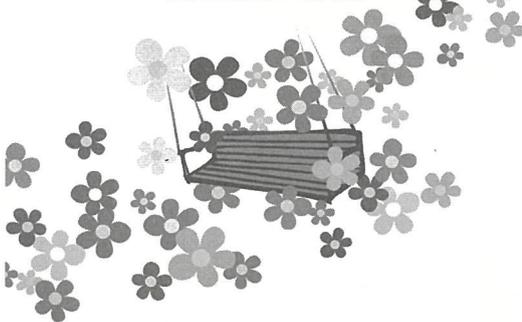
## 中條文化振興財団後援

劇団プチミュージカル公演

ファミリーミュージカル

# 春はブランコにのって

「家族」って? 「親子」って? 「夫婦」って?  
劇団プチミュージカルがおくるファミリーミュージカル  
「春はブランコにのって」  
私達と一緒に考えませんか? 「家族」のこと。



「家族」って? 「親子」って? 「夫婦」って?  
劇団プチミュージカルがおくるファミリーミュージカル  
「春はブランコにのって」  
私達と一緒に考えませんか? 「家族」のこと。

平成12年12月10日(日)

多度津町民会館 14:30開場  
15:00開演

平成13年2月11日(日)

香川県県民ホール 14:30開場  
15:00開演

お問い合わせ 劇団事務局 香川県大川郡津田町公園通り中川建材店内  
TEL0879-42-3567

チケット

当日 2,000円 前売り 1,800円 ペア 3,000円

『中條文化振興財団後援・助成事業』

劇団如月舎／公演



原作／荻原すなお

**松ヶ枝町英雄伝説物語** 荻原すなお

ぼくは香川県の西の端の小さな町に生まれ育ちました。家のすぐ近くに海があり、白い砂浜があり、潮とともに泳ぎ引きを引く川があり、潮風のために不思議な形に仕上がった松の大木がいつでもぼくを待っていてくれたのです。当時の日本は今のように裕福ではありませんでしたが、ぼくにとってのこのころはほんとうに黄金の時代でした。大人と子どもとの心がよく自然な形で通い合っており、周りのあらゆるものが感情的な輝きを放っていました。あれから数十年が経過しても、ぼくの中の記憶は少しも色あせることはありません。ぼくという人間の芯を作り、生きてゆくための力を与えてくれるのです。その記憶を物語の形に編み上げたのが、この作品です。登場人物はどこにでもいるような人々ばかりですが、ぼくの中ではひとりひとりが輝かしい「英雄」なのです。「サガリ」とは本来北の英雄伝説物語のこと。わが毎身大の英雄たちに対する愛情と敬意をこめて、「松ヶ枝町サガリ」というタイトルをつけました。

おそろく誰の心の中にも「松ヶ枝町」はあるでしょう。如月秀のエネルギーでスピーディーな楽しい舞台を観ながら、観客のみなさんがそれぞれの内なる松ヶ枝町に再び戻ってきて、登場人物と心を通い合っていく。ぼくは折っています。

荻原すなお氏・観音寺出身の作家

「青春デンデケデケデ」で直木賞受賞

■平成13年1月28日(日) 開場13時30分  
開演14時00分

■観音寺市民会館大ホール

■入場料／大人前売2000円・当日2500円  
(税込) 小人前売1500円・当日2000円

■主催／荻原すなおの世界を観る会・隅照会

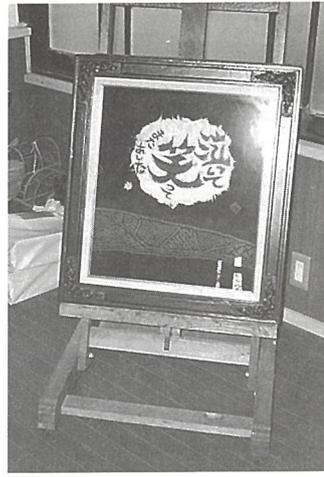
■チケット取扱いは

ギャラリーハウスOGITA ☎0875(25)0631

## 北條カツ昭 個展

# 「泣いて 笑ってまた あした展」を訪ねて

私設児童館「わらべ亭」を主催し、三年前に当財団の助成事業の認定を受けた北條カツ昭氏より個展の案内を頂いた。体調を崩して静養中であった彼からの案内状には「葬式展」と書かれていた。昨年夏に医師からあと二ヶ月の命と言われ、最後の作品作りに取りかかった。これまでの三十年間、子供たちと共に歩き、学んだきたことのひとつひとつを、言葉にした作品たちであった。



小高い丘の上に建ち、

緑に囲まれた「子どもどころ美術館」で私たちを出迎えてくれたのは北條氏の笑顔であった。ご健康時の先生は写真でしか知らないが、その子供のような笑顔には病気の面影すらなかった。

作品は和紙や藍、土壁などをつかい、純粹な気持ちを一宇一句刻んだもの。それは子供たちへのメッセージであると同時に、我々への、子供たちからのメッセージではないかとも感じられた。



先生が大阪で子供たちとともに、その表現の場として「北條児童美術研究所」を開設したのは今から三十二年前の一九六八年。そしてその活動の場を小豆島に移したのが九一年。高松出身の先生にとって「子供たちに伝えたいこと、学んで欲しいこと」は、都会の教室の中ではなく大自然の中にあつたとか。今でもわらべ亭の周りには、子供たちの笑顔があふれていた。

そして十年を迎えようとしていた一昨年の冬に大病を患い闘病生活に。子供たちとの活動もままならなくなり、昨年夏には「あと二ヶ月」と告げられた北條氏。残酷な宣告を受けてなお作品作りを続けるうちに一年が過ぎたという。身体の痛さも不快感も気にならなくなり、「病気は病気、私は私」で過ごすうちにカラダ



はすっかり元気になっていったという。会場は明るく、初めて訪れた我々を暖かく迎えてくれると同時に、「わらべ亭」卒業生も大勢訪れており、笑い声の絶えないアットホームな雰囲気であった。



## 編集後記

年のはじめに戴いた年賀状、一枚一枚それぞれの感懐をもって読まして頂いた。わけても今年は西暦二〇〇〇年、ミレニアムの記念すべき年ということでのその賀状の年号をことさら興味をもって見せてもらった。

圧倒的に多かったのは平成。二〇〇〇年というのがそれに続いたが思ったほどの数では無かった。その中に県人だのにどのようにして投函したのか北海道根室局発信の二〇〇〇記念スタンプを押捺したものがあったが、皇紀二六六〇年というのが意外に多かった。そのほか平成庚申というものもあって、実に多種多様であった。なんだかこの頃の世相を映しているような感もした。年賀状で見る限り、そうそうミレニアムブームでもないらしい。

いいかえれば、人の心は世上の噂ほど単純ではないということだろうか……。それにしても過ぎ去った人類が刻んだ年月は気の速くなるほど長い。しかし、振り返ってみると一瞬であつたともいえる。それにひきかえ、これからの年月を思うとき途方もなく長くても遙かだ。希望もあれば、いいしれぬ不安もある。それだけに、新しい年を決意を持って生きていきたいものだ。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017 高松市番町二丁目一十二

(財)中條文化振興財団編集部

TEL(087) 8266・6355

FAX(087) 8266・2212